

# 漁海況情報

平成21年7月3日 第13号(通巻403号)

山口県水産研究センター 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎2861-3

TEL:0837-26-0711 FAX:0837-26-1042 Mail:a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

HPアドレス: <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16500/uminari/uminari-top.html>

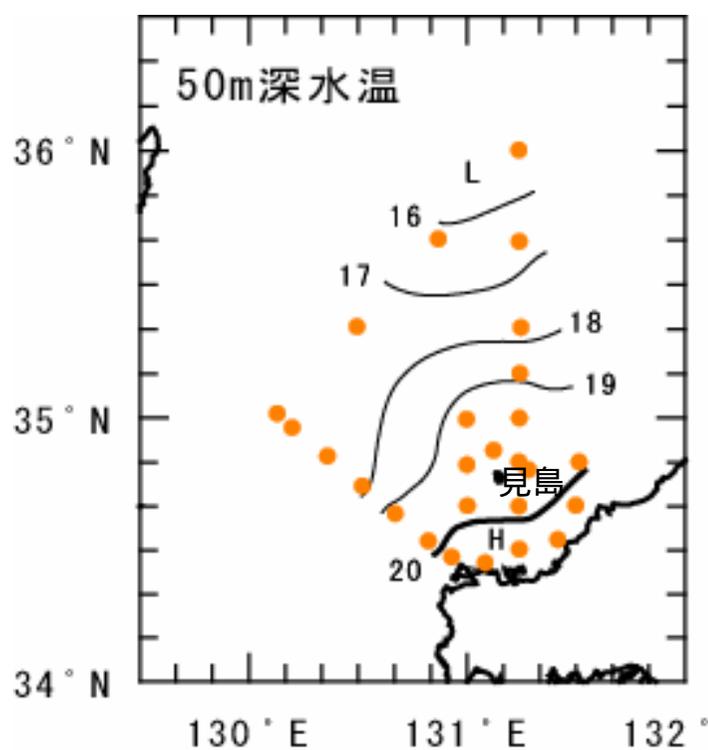
## 【くろしおによる海洋観測】

7月1～3日に漁業調査船「くろしお」で定線観測を実施した結果、50m深・100m深の水温分布並びに魚群分布は、以下のとおりになりました。

なお、航海中、エチゼンクラゲは確認されませんでした。

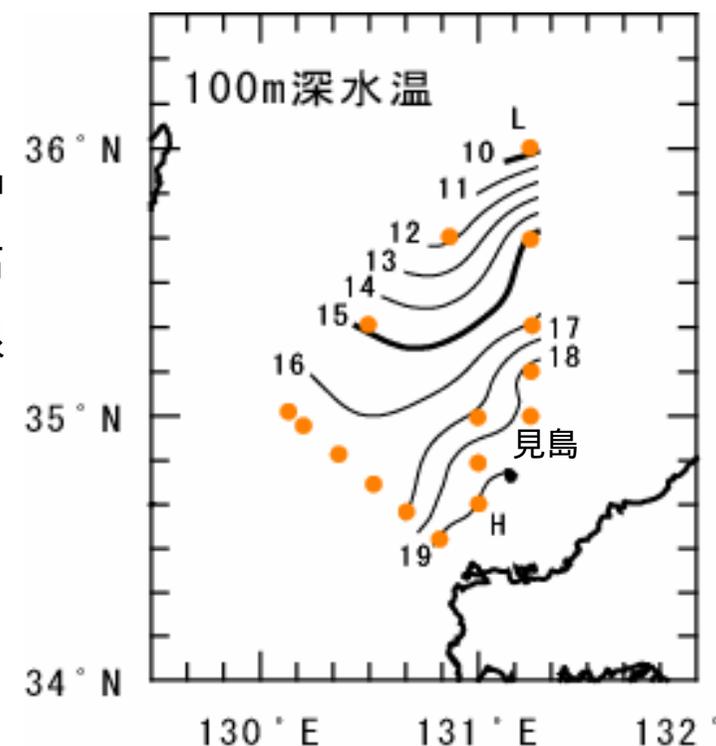
## 【50m深水温分布】

見島から沿岸では19～20℃台でやや高め(+1.1℃)、見島から沖合でも15～19℃台でやや高め(+1.1℃)でした。



## 【100m 深水温分布】

見島から沿岸では、18～19℃台で甚だ高め(+1.6℃)でした。見島から沖合では9～16℃台でやや高め(+1.6℃)でした。島根沖冷水の張り出しは、強くありませんでした。



## 【魚群分布】 7月

1～3日の定線観測で魚群反応のあった海域とその反応水深並びに表層水温は、次ページ図表のとおりでした。

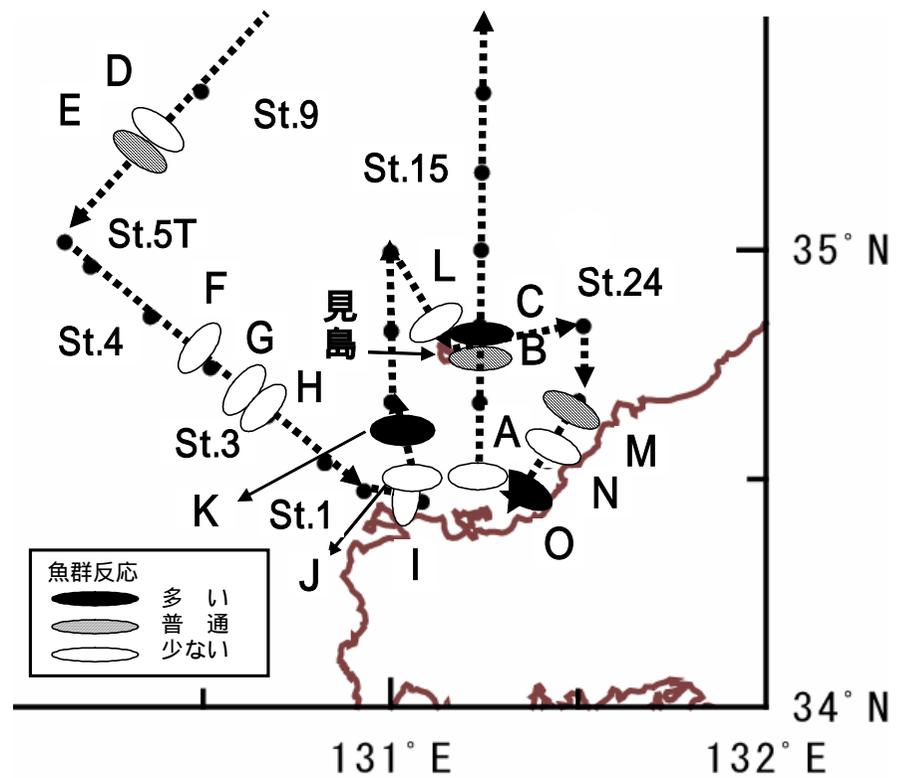


表 7月定線観測で魚群反応のあった海域とその反応水深ならびに表層水温(単位:°C)

反応のあった海域	日付	時間	緯度	経度	表層3m水温(°C)	その位置の水深(m)	魚群反応	反応水深帯
A	7月1日	16:08	34°30.12'N	131°14.89'E	22.6	66	少ない	10~50m
B	7月1日	18:03	34°44.51'N	131°14.73'E	22.9	80	普通	50m~海底付近
C	7月1日	18:14	34°46.67'N	131°14.70'E	22.9	76	多い	50m~海底付近
D	7月2日	9:59	35°14.95'N	130°25.53'E	22.0	130	少ない	100m~海底付近
E	7月2日	10:40	35°08.92'N	130°20.04'E	22.7	134	普通	40~100m
F	7月2日	14:57	34°46.76'N	130°28.33'E	23.4	133	少ない	70~80m
G	7月2日	15:49	34°43.31'N	130°33.22'E	22.9	131	少ない	35~45m
H	7月2日	16:11	34°40.71'N	130°36.94'E	23.2	122	少ない	75m~海底付近
I	7月2日	19:36	34°27.23'N	131°04.24'E	23.4	69	少ない	60m~海底付近
J	7月2日	20:05	34°29.41'N	131°03.78'E	23.4	86	少ない	70m~海底付近
K	7月2日	20:44	34°35.23'N	131°00.90'E	23.2	97	多い	80m~海底付近
L	7月3日	0:20	34°54.89'N	131°05.35'E	22.9	79	少ない	50~60m
M	7月3日	4:19	34°40.16'N	131°30.31'E	22.8	81	普通	65m~海底付近
N	7月3日	4:40	34°37.22'N	131°27.92'E	22.8	80	少ない	55m~海底付近
O	7月3日	5:22	34°34.45'N	131°25.72'E	22.5	67	多い	20m~海底付近

緯度・経度は世界測地系で表示。

### 【萩 - 見島フェリー観測の表層水温】

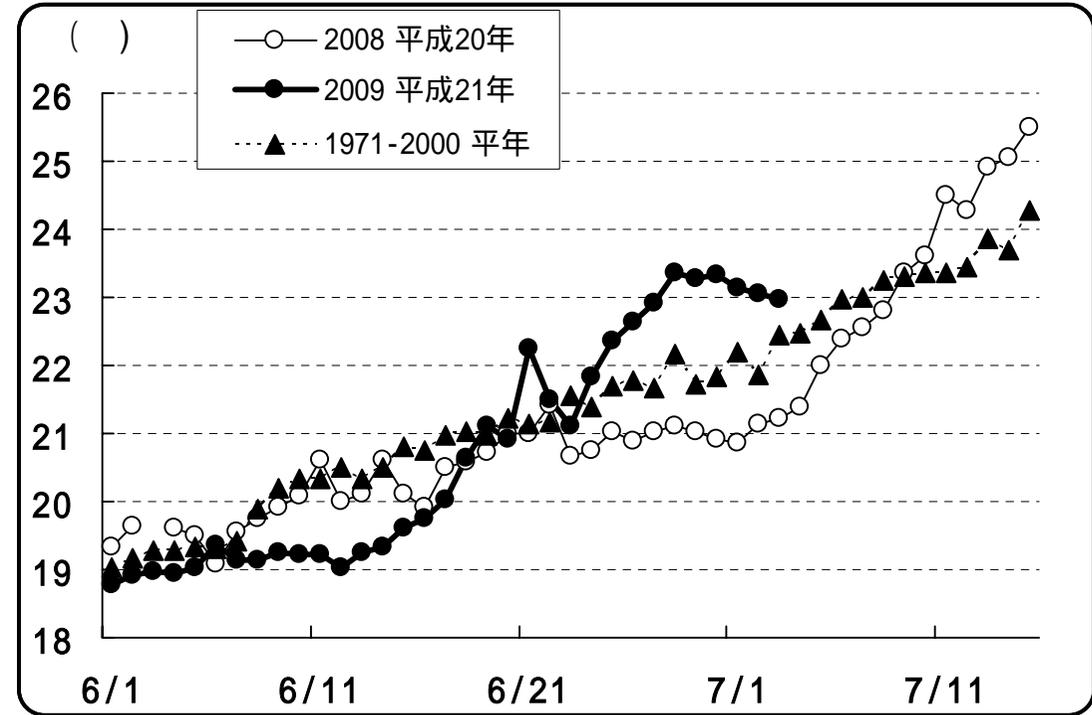


図 萩NNW15マイル沖表層水温の推移

萩 - 見島フェリー観測による萩沖の表層水温(上図)は、6月中旬までは前年・平年並みを下回って推移していましたが、6月下旬以降、前年・平年を上回って推移しています。7月3日の表層水温は22.97°Cで、前年に比べ1.76°C、平年に比べ0.51°C高めです。

## 【マアジの漁況予報】

7～10月における県内のマアジの漁獲量は、1歳魚(全長17～22cm)を主体に前年・平年並み、と予想されます。

次の6つの項目から総合的に判断しました。

\* ここで「平年」とは、過去5ヶ年の中型まき網による漁獲量の平均値(2,900トン)で、「前年」とは平成20年の漁獲量(2,500トン)のことを指します。

### 予測の根拠

#### ① 対馬暖流系群マアジ漁況予報 (H21年4～9月期予報)

マアジの来遊量は前年並みと予想される。

沿岸域の漁況は前年・平年並みであろう。魚体は15～25cm(1歳魚)を主に、5～15(0歳魚)と25cm以上(2歳魚)も漁獲されるだろう。

\* 西海区水研がH21年3月に公表したもので、山口水研センターも参加。

#### ② 対馬暖流系群マアジ資源評価

マアジ資源は、中位・減少傾向にあると判断される。

\* 西海区水研がH20年8月に公表したもので、山口水研センターも参加。

#### ③ 日本海マアジ漁況予報 (H21年5～9月期)

日本海西部におけるマアジの来遊量は前年を上回る。

\* 日本海区水研がH21年5月に公表したものの。

#### ④ 山口県の中型まき網によるマアジ漁獲量の長期変動傾向

山口県の中型まき網によるマアジの漁獲量は、1999年以降、2,000～3,000トン台で安定して推移している。

#### ⑤ 中型まき網による初漁期(3～5月)と年間の漁獲量の関係

中型まき網による初漁期(3～5月)の漁獲量と年間漁獲量には有意な正の相関関係が認められる。2009年の初漁期の漁獲量は、719トンで過去10年の平均値をやや下回った。初漁期の漁獲量と年間漁獲量との関係式から年間漁獲量を求めると、約2,400トンとなった。

#### ⑥ マアジの当歳魚の調査(新規加入量調査)結果

山口県の前年のマアジ当歳魚調査の値と中型まき網の漁獲量との間に有意な正の相関関係が認められる。2008年における当調査の値が高かったため、2009年には1歳魚の加入は良好と考えられる。